



はいさい

編集企画・発行
 沖縄防衛局
 総務部報道室

〒904-0295
 嘉手納町字嘉手納290番地9
 TEL (098) 921-8131
<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>



秋空に舞うサシバ（那覇防衛事務所 仲村盛祐）

嘉手納での生活



坂野 祥一

八月一日の異動で沖縄防衛局に勤務となりました。異動の内示を受けた際、米軍の事件・事故がないように……。こんな思いが一番先に脳裏をよぎりました。

八月三日の夕方、那覇に到着。職員を迎えを受け、その案内で沖縄民謡を聴きながら「沖縄そば」。四日の夜から嘉手納町水釜の官舎生活。五日の朝、航空機の音で目を覚まし、窓の外を見るとF-15戦闘機が二機海へ向かって飛行中。時計を見ると未だ六時三十分。嘉手納では米軍の活動が、こんなに早くから実施されていることを実感し「事故がないように」と念じ、合わせて「ご苦労様」と一言。

このように航空機騒音と同居する形で始まった嘉手納町水釜での生活も早いもので二ヶ月になろうとしておりますが、最近、航空機の騒音もさることながら夜半国道五十八号を暴走するバイクの音に煩いを感じております。とは言うものの生来性格が横着なのか、鈍感なのか分かりませんが、生活には全く支障なく暮らしております。特に休日の黄昏、静かにゆつくりと東シナ海へ沈む夕陽を眺めていると感慨深いものがあります。素敵なひと時です。

沖縄では、色々なイベントが多く、先日、初めて闘牛大会を見ました。体重一トン前後の牛がぶつかりあい、角を絡ませ迫力満点の真剣勝負。牛の側についている男（闘牛士）というそうです。が「ヤグイ」と呼ばれるかけ声を発し、牛を叱咤鼓舞する様は一つの芸術。楽しい中で緊張感の二時間でした。

因みに牛の角は「道具」と呼ばれ、最大の武器であると同時に牛の個性でもあり、トガイ、カブラー等色々な種類があるそうです。十一月には全島闘牛大会が予定されており、今から楽しみにしています。

闘牛の気合いを少しでも見習い業務に取り組んでいきたいと考えております。皆様宜しくお願いいたします。

（次長）

駐留軍等労働者募集業務について

我が国には、日米安全保障条約に基づき、アメリカ合衆国の軍隊が駐留しており、このアメリカ合衆国軍隊（以下「在日米軍」という。）の任務遂行のために必要な労働力は、日本政府が雇用主となって在日米軍に提供しています。

日本政府に雇用され在日米軍基地で勤務している方々は、「駐留軍等労働者（在日米軍従業員）」と呼ばれており、約25,000人が、全国各地の在日米軍基地において事務や技術及び販売等多様な支援業務を行っています。このうち、沖縄県では、約9,000人の方々が嘉手納飛行場やキャンプ瑞慶覧などの米軍基地で働いています。

沖縄防衛局と独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構那覇支部・コザ支部では、駐留軍等労働者の雇入れ、提供、労務管理、給与及び福利厚生などに関する業務を行っています。今回は、これら業務のうち、駐留軍等労働者の雇入れに係る募集業務などについてご紹介します。

Q & A よくあるご質問

Q: 駐留軍等労働者の応募に際し、英語能力はどの程度必要ですか。

A: 職種により求められる英語能力が異なりますので、一概にはお答えできませんが、米軍基地で働く関係上、英語が堪能であれば応募できる職種も広がります。近年では英語資格が重要視されています。

Q: 沖縄での事前募集について教えてください。

A: 沖縄地域においては、毎年、米軍基地での就労を希望する方を事前に募集し、米軍から人員要求のあった都度、その要求職種に必要な資格等持った方を、選出して米軍に紹介しています。事前募集は那覇支部、コザ支部の窓口やインターネットでも受け付けています。

Q: 資格・免許の原本を引っ越しなどで無くしてしまったのですが・・・

A: 資格・免許については、適格者として選出された場合、支部が行う面接事前説明会において原本で確認していますので、早めに再発行の手続きをして下さい。原本が確認できない場合は、原則として米軍への紹介はできません。

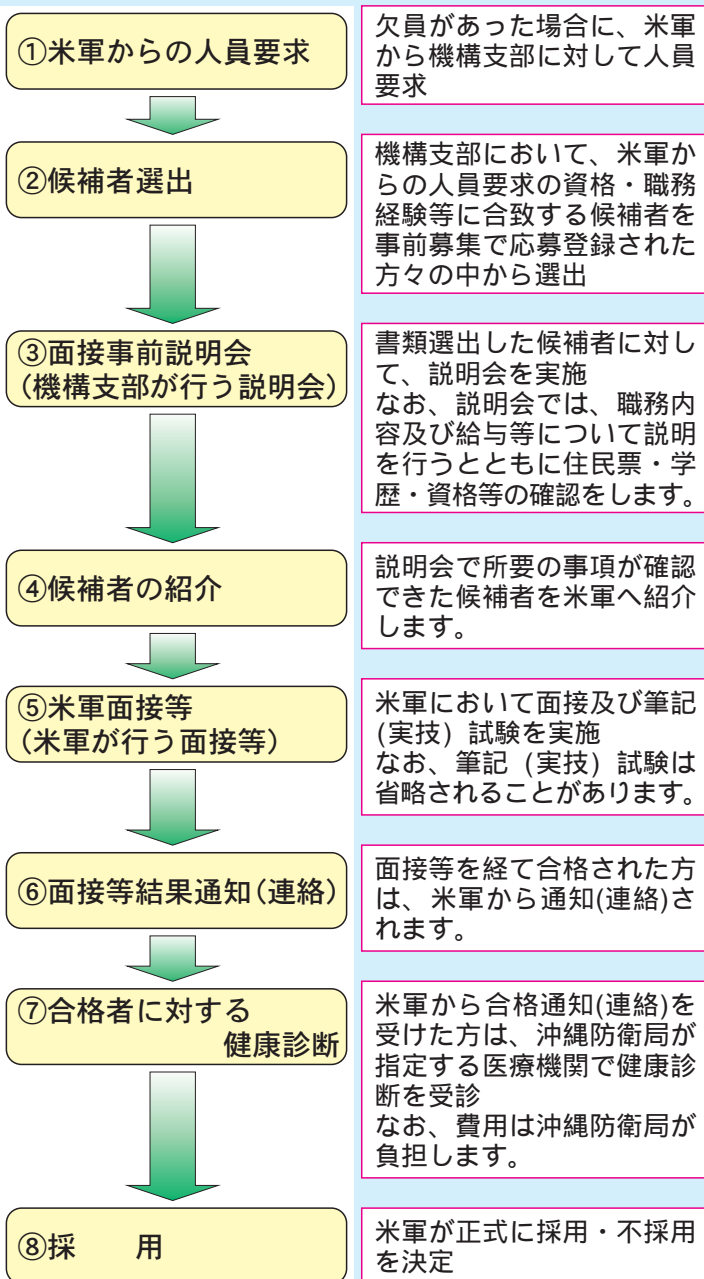
Q: インターネットによる応募と窓口応募とではどちらが有利ですか。

A: インターネット又は窓口で応募された方の情報は、同一のデータベースで管理しますので、どちらが有利、不利ということはありません。

Q: 駐留軍等労働者は国家公務員ですか。

A: 駐留軍等労働者は、日本政府に雇用されるため国家公務員と混同されがちですが、国家公務員ではありません。

沖縄における駐留軍等労働者の採用までの流れ ～米軍の人員要求から採用まで～



在日米軍従業員のコメント



今般、永年勤続四十年の表彰を受けられる嘉手納基地第七一八施設中隊ハウジング事務所の伊集守安様から色々お話を伺うことができました。ご紹介します。

一九六八年、牧港補給地区に勤めてから今年で四十年となりました。入った当時は、倉庫の大きさや物資の多さに驚いたものです。仕事においても少々のミスには動じない度量の広さに感心したのを覚えています。仕事を命じ、できる、できないかは二の次で、失敗してもやってみろということで、色々仕事にチャレンジさせてもらいました。

現在は、嘉手納基地でハウジングのインスペクター（住宅検査職）の仕事をやっています。住宅に係る不具合や申し入れを受け、色々検査したり、修理の確認を行ったりしています。住宅の住民は、当然、米国人です。彼らとうまくコミュニケーションを取る必要があります。変わったのでこの職場に変わるにあたって短大の夜学へ通って英語に磨きをかけました。今でも毎日一時間ヒヤリングの勉強は欠かしたことがあります。

一言で四十年といいますが、職場環境、監督者、同僚に恵まれ、また、家族の支えもあってこそだと思っています。

(談)

あらゆる職種があります。

一般事務、会計事務などの事務系、機械運転、車両整備の技術系、建築作業、製造作業などの一般労務系、警備員、消防員などの保安系、語学職、医療、教育・研究などの専門職系、飲食・食品、販売などのサービス系等のあらゆる職種があります。

様々な職種があります。
あなたの希望する職種があるかもしれません。
就職先の1つとしてご検討下さい。



給与と福利厚生

従業員の給与は、勤務する職種によって定められている基本給と扶養手当などの諸手当で構成されています。

従業員には、健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険など各種社会保険が適用されるほか、財形貯蓄・各種健康診断等様々な福利厚生制度があります。

事前募集について

沖縄においては、米軍基地への求職者が多いことから、事前に募集・登録し、米軍から労務要求があり次第、その中から適格者を選出し紹介する方法を採っております。

このため、米軍基地で働きたい方は、事前募集に応募・登録していただく必要があります。

今年度から窓口受付を通年化（各月の上旬5日間）するなど応募機会の拡大及び利便性の向上に努めておりますので、多くの方々の応募をお待ちしております。

応募受付・問い合わせ場所



独立行政法人
駐留軍等労働者労務管理機構

- ・那覇支部 管理課 浦添市字城間1985-1
(オリオン会館2階) TEL:(098)879-1023
- ・那覇支部 沖縄分室 沖縄市中央2-28-1
(コリンザ3階)
- ・コザ支部 管理課 沖縄市久保田3-5-10
(プラザハウス裏) TEL:(098)932-1091

インターネットでの応募受付

労務管理機構のホームページをご覧ください。

<http://www.lmo.go.jp>

エルエムオー

応募上の注意事項

1 応募資格について

- ・沖縄在住の満18歳以上の方で、平成20年度（5月以降）に応募(事前登録)されていない方

2 登録有効期間

- ・インターネット応募は、受付日の翌日から1年間有効
- ・窓口応募は、受付日の翌々日から1年間有効

3 応募方法

- ・郵送による応募は出来ません。窓口まで申込書を持参するか、インターネットによる申し込みをして下さい。
- ・窓口又はインターネット、いずれか1回の応募で有効になります。

直言コーナー



社 日新聞記者
朝那覇総局
土居 貴輝

「本土の方は普天間移設問題を（返還が合意された）一九九六年からの経過だけで考えているのではないか。沖縄戦から始まって戦後六十年以上の沖縄と米軍の歴史の中に位置づけて考えてください。そして何より、基地をとりまく現状を見てほしい」

昨年五月に東京から沖縄に赴任してまもなく、ある取材先から言われたこの言葉が、沖縄での取材の自分の原点になっている。

二〇〇五年夏、当時の防衛庁担当になり、米軍再編の中間報告から二〇〇六年五月のロードマップに至る過程を主に政府サイドから取材した。

「〇〇移設で両政府が合意」、「〇〇移転を検討」…。当時は、再編される基地機能や基地の名前、移設される部隊名が次から次へと飛び交う日米両政府の交渉内容をフォローすることに追われてしまった。沖縄の米軍再編の問題を沖縄と米軍の戦後六十年の時間軸に置いて、問題点や意味合いを考える視点に欠けていたと自戒している。

戦闘機やヘリの騒音、米軍関係者による事件、事故…。沖縄では、住民の日常生活と「米軍基地」が隣接している。

赴任して最初に見に行った普天間飛行場。一九四五年に米軍が土地を接收して建設した基地

アスベスト(石綿)に係る駐留軍等労働者の健康相談窓口について

アスベスト(石綿)による健康被害等に係る駐留軍等労働者の相談窓口を開設しています。

駐留軍等労働者及び在日米軍基地に勤務され退職された方等でアスベスト(石綿)に関することやご自身の健康不良や健康不安などがある方は、次の窓口にご相談下さい。

- ・ 沖縄防衛局 労務管理官室 嘉手納町字嘉手納290-9
TEL 098-921-8131
(内線607・609)
- ・ 労務管理機構 那覇支部 浦添市城間1985-1
TEL 098-879-1027
- ・ 労務管理機構 コザ支部 沖縄市久保田3-5-10
TEL 098-932-1093

だ。基地周辺を歩いていると、隣接する小学校の真上を米軍の大型輸送機が低空で飛来し、校庭の児童が耳をふさいでいる様子を目にした。基地の歴史を学び、現場を繰り返し踏むことで、沖縄が米軍に対して抱いている「肌感覚」のようなものが少しずつ理解できるようになってきた。

沖縄の基地問題に対する本土と沖縄の「温度差」が指摘されて久しい。地に足をつけた取材を続けて、その温度差を埋める現場発の記事を一本でも多く発信していきたい。



サンジチャ 三時茶

施設補償第2課長 田名 弘明

私が育った生家は、ハイビスカスの木で囲まれた生け垣があった。時期時期の休日には、伸びきった葉を刈り取る作業を父は剪定ばさみでチヨキチヨキやっていた。その剪定作業には決まって午後三時のティータイムがあった。

縁側には、ばらさんびん茶に定番の二つてんぶらあ、小腹がすいたときや疲れ直しにはいい特効薬であるばかりか、てんぶらあといかりソースの匂いに、刈り取った葉の香は風情があり、今でも懐かしい。三時茶は、家族や近所の良いコミュニケーションの場であった。

嘉手納に移って数ヶ月、帰宅時に局周辺を散策した。嘉手納ロータリーの再開発により人の流れは新町通りへと移動したが、以前、北側住宅地の中には、嘉手納中央市場があり衣料品を中心に三十三店舗が営業して繁盛していたらしい。通行区分の変更や都市再開発により、嘉手納近郊の重要な要路だった面影は今感じ取れない。

しかし、小さな坂道にただ一軒「津波天ぷら店」が当時のまま営業しているのを見つけた。昔造りの木造平屋建の古い建物、ビニールの網戸、どれも年が入っている。明るい女店主は「今残っているのは私だけさあ」と、華やかだった往事を身振り手振りで話された。

この数年で職場環境はすぐく進歩しIT化され早さが求められる時代となった。このような時代だからこそ、人々がゆんたくはんとくする三時茶は必要なのではないだろうか。三時茶こそ心や体を癒し業務能力を高める一時ではないだろうか。人影のない小さな坂道を歩きながらそう感じた。

